



大阪有機化学工業株式会社
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.
のびゆく力、未来へ

会社説明会および 2011年11月期 決算説明会資料

2012年1月16日



はじめに

当社は、平成23年12月7日をもちまして、東京証券取引所市場第二部より
同市場第一部銘柄に指定されることとなりました。

これもひとえに、株主の皆様をはじめ、これまでお力添えいただいた関係の
皆様からの温かいご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

今後も皆様方のご期待に応えるべく、業容の拡大と企業価値の向上を目指す
所存でございます。

大阪有機化学工業株式会社

目次

- I. 2011年11月期連結決算 ----- p. 4
- II. 2012年11月期連結業績予想 ----- p.10
- III. 成長戦略・中期事業計画 ----- p.17

I. 2011年11月期連結決算

5

業績概要(連結)

(百万円)

	'10/11	'11/11	増減	前年比
売上高	22,022	22,655	633	103%
営業利益	1,779	1,588	△191	89% ※
経常利益	1,807	1,655	△152	92%
当期純利益	1,268	808	△460	64% ※

- ※ 売上高、営業利益：前年比103%および89%
 ・売上高は、震災の影響も少なく推移。営業利益は液晶パネル関連業界の需要低迷と円高の影響により減少。
- ※ 当期純利益：前年比64%
 ・震災にかかわる製品・原料の廃棄と有価証券評価損による特別損失により大幅減少。

6

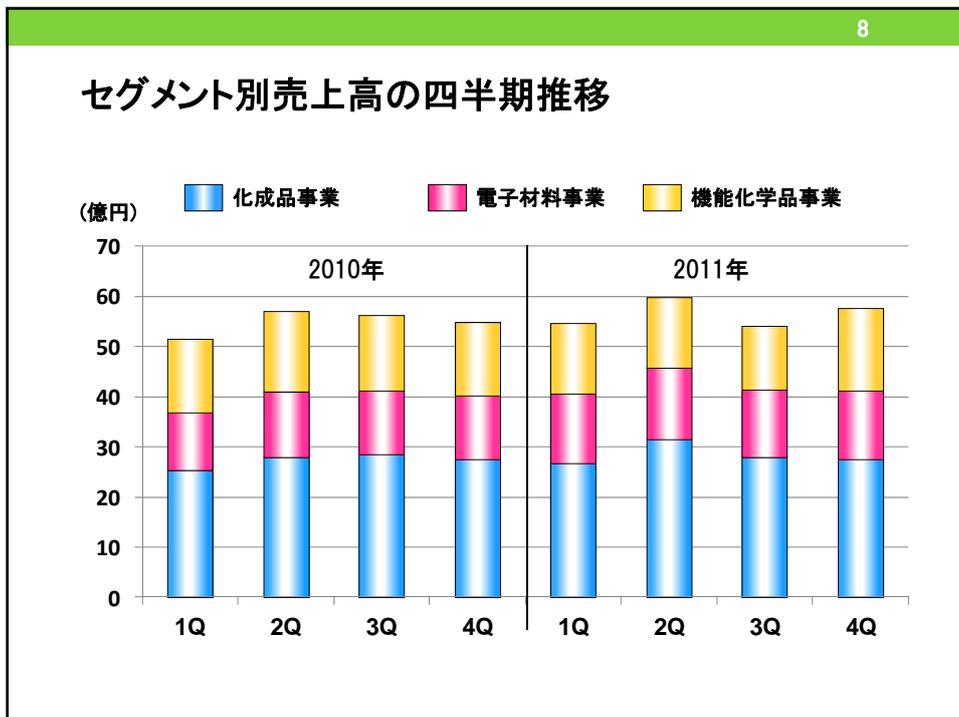
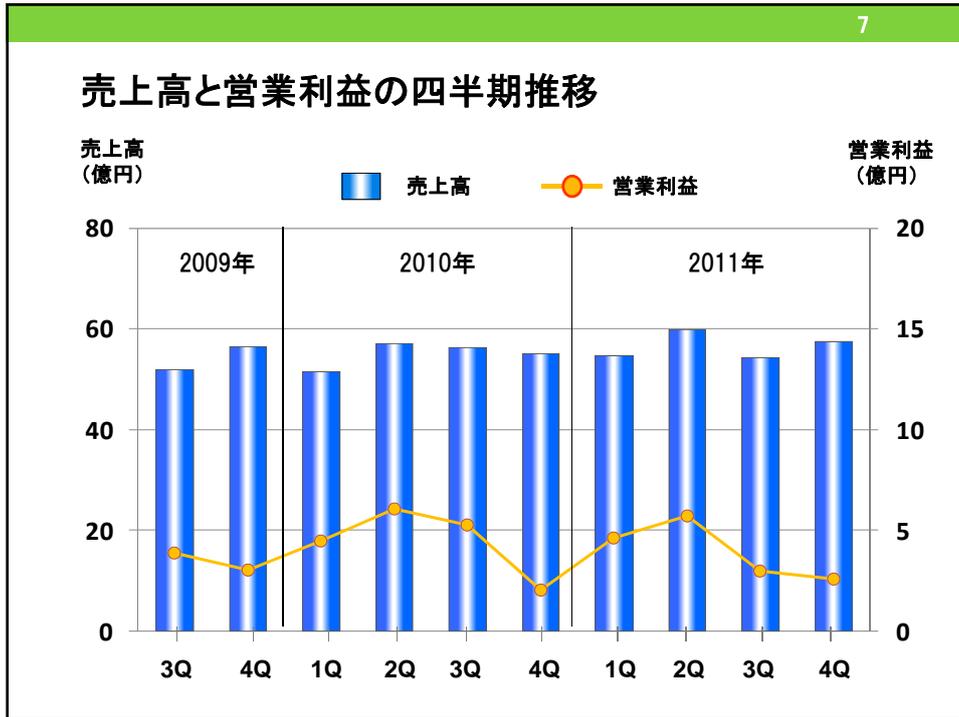
セグメント別業績概要(連結)

注)'10/11のセグメント別金額は、セグメント組替えでの参考値。各セグメント営業利益は、調整前金額で表示。

(百万円)

	'10/11 ^{注)}	'11/11	増減	前年比
売上高	22,022	22,655	633	103%
化成事業	10,953	11,394	441	104% ※1
電子材料事業	5,013	5,542	529	111% ※2
機能化学品事業	6,055	5,718	△337	94% ※3
営業利益	1,779	1,588	△191	89%
化成事業	708	427	△281	69% ※1
電子材料事業	863	876	13	102% ※2
機能化学品事業	214	292	78	137% ※3

- ※1 化成事業、売上高・営業利益：前年比104%および69%
 ・震災の影響は少なく、売上高は微増。円高の影響により営業利益減少。
- ※2 電子材料事業、売上高・営業利益：前年比111%および102%
 ・情報末端向け需要が好調で、半導体材料は増加。一方、液晶パネル関連材料の需要低迷により営業利益減少。
- ※3 機能化学品事業、売上高・営業利益：前年比94%および137%
 ・一部の受託製品の撤退により売上高は減少したものの、採算性の改善により、営業利益増加。



2011年11月期 業績まとめ

1. 売上高は東日本大震災の影響が少ないものの、液晶パネル関連業界の需要低迷により微増にとどまる。
2. 営業利益は急速な円高と液晶パネル関連業界の需要低迷により減少。

II. 2012年11月期連結業績予想

2012年11月期業績予想概要(連結)

(百万円)

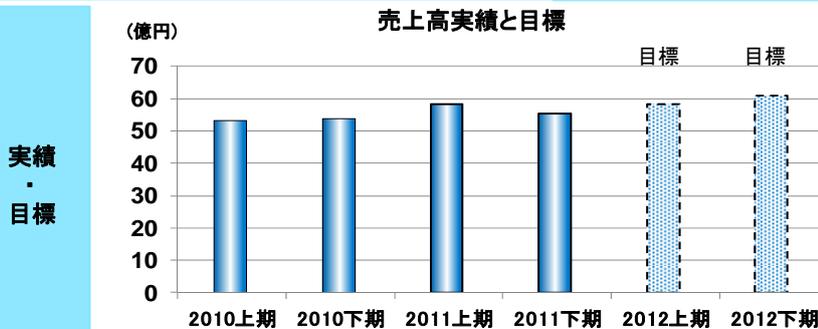
	'11/11	'12/11	増減	前年比
売上高	22,655	23,837	1,182	105% ※
営業利益	1,588	1,251	△337	79% ※
経常利益	1,655	1,324	△331	80%
当期純利益	808	795	△13	98%

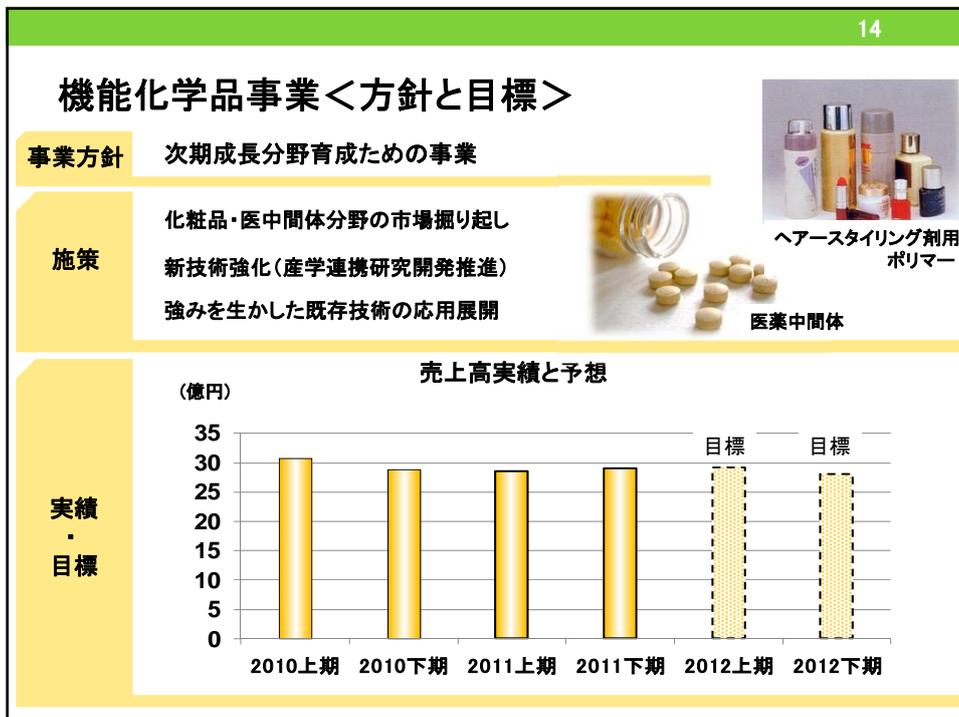
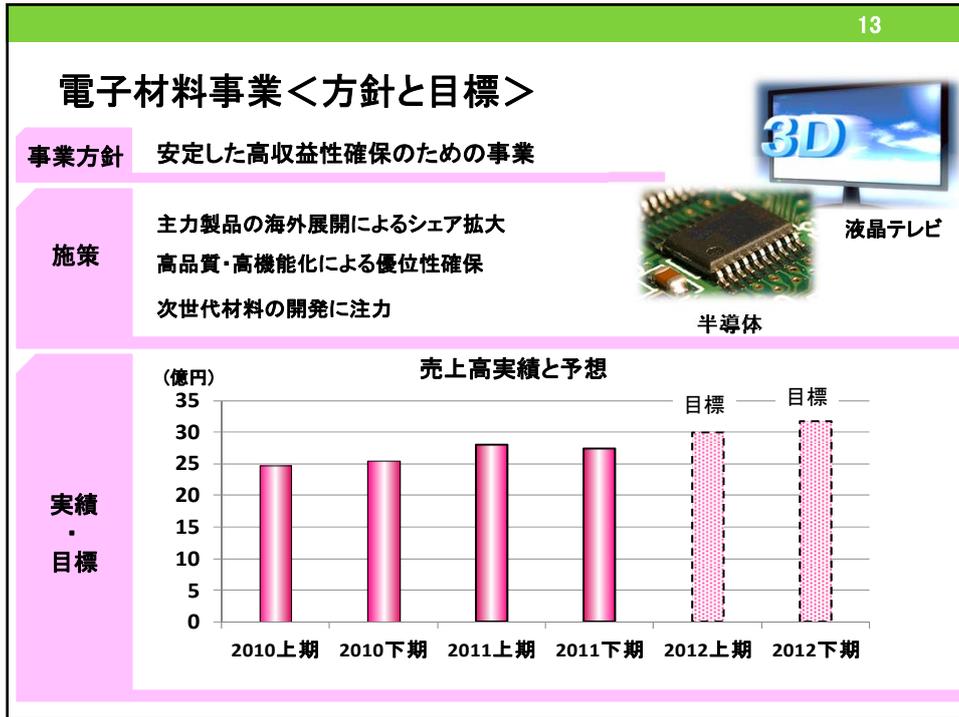
※ 売上高は増加を見込むが、償却負担 約5億円増により、営業利益減少。

化成品事業<方針と目標>

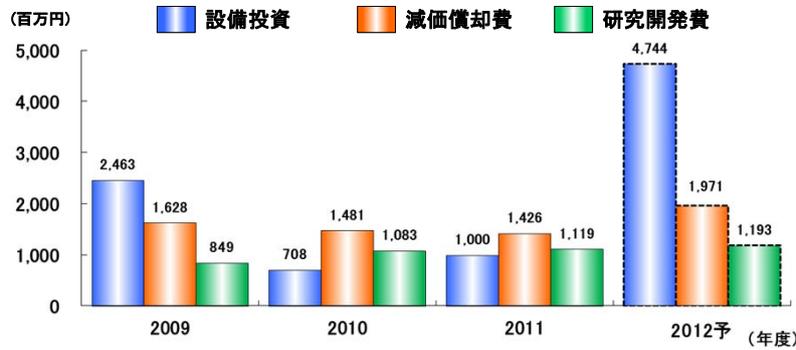
事業方針 持続成長のための安定収益基盤事業

施策
 海外市場への拡販強化
 新設プラント稼働による競争力強化
 自動車塗料・電子材料分野のシェア拡大





設備投資・減価償却・研究開発費



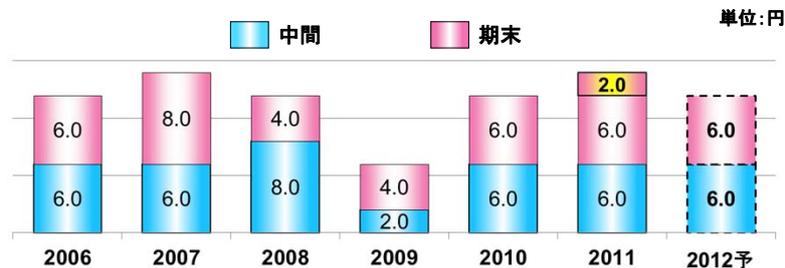
主な設備投資案件(2012/11月期)

- ・金沢工場 アクリル酸エステル製造設備(化成品事業生産集約対応)
- ・酒田工場 新規製造設備建設(主な設備投資は、4-HBA製造設備)
- ・研究所 分析・機能評価機器、試作機器等

一株当たり配当金

2011年度 年間配当 14円
(中間配当6円、期末配当6円+東証一部指定記念配当2円)

2012年度 年間配当 12円を予定
(中間配当6円、期末配当6円)



利益配分に関する基本方針

配当額: 業績や事業計画に備えた内部留保の充実等を勘案してバランスをとりつつ決定
内部留保: 将来につながる新製品、新技術へ向けての研究開発投資や生産能力増強、合理化や高付加価値化へ向けての設備投資等の原資として活用

III. 成長戦略・中期事業計画

成長戦略の基本軸

選択と集中による持続的な成長力の構築

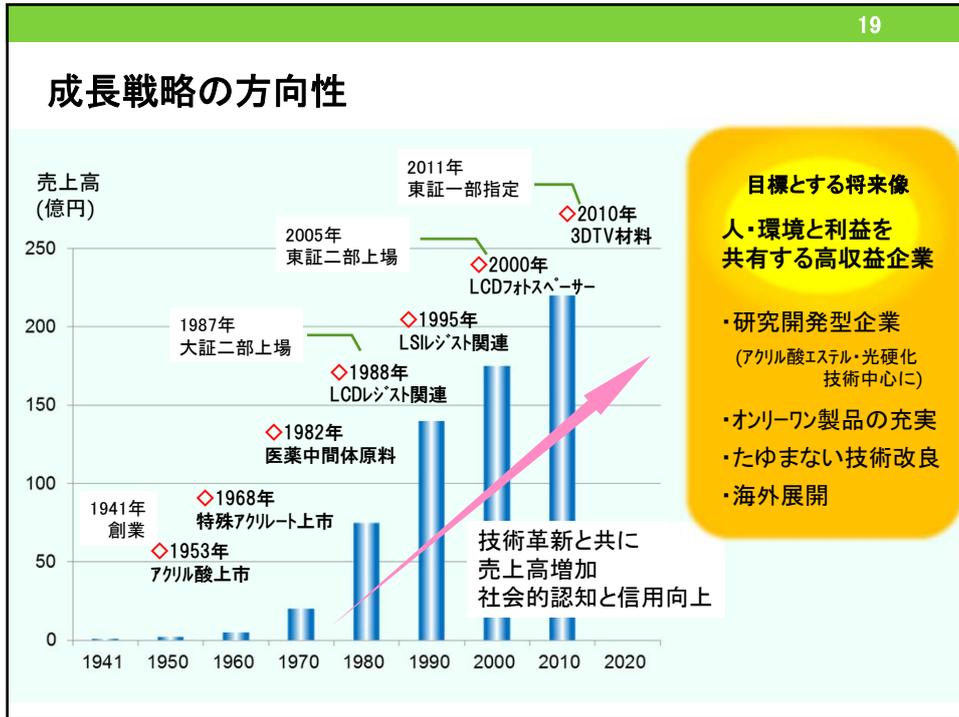
- ・新製品開発のための技術力の強化
- ・顧客の拡大及びマーケティングの充実
- ・品質・コスト競争力の向上

会社の社会的責任の実現と株主価値の向上

- ・安全・環境・コンプライアンスの重視
- ・コーポレートガバナンスの充実
- ・財務体質の強化

目標とする将来像

人・環境と利益を
共有する高収益企業

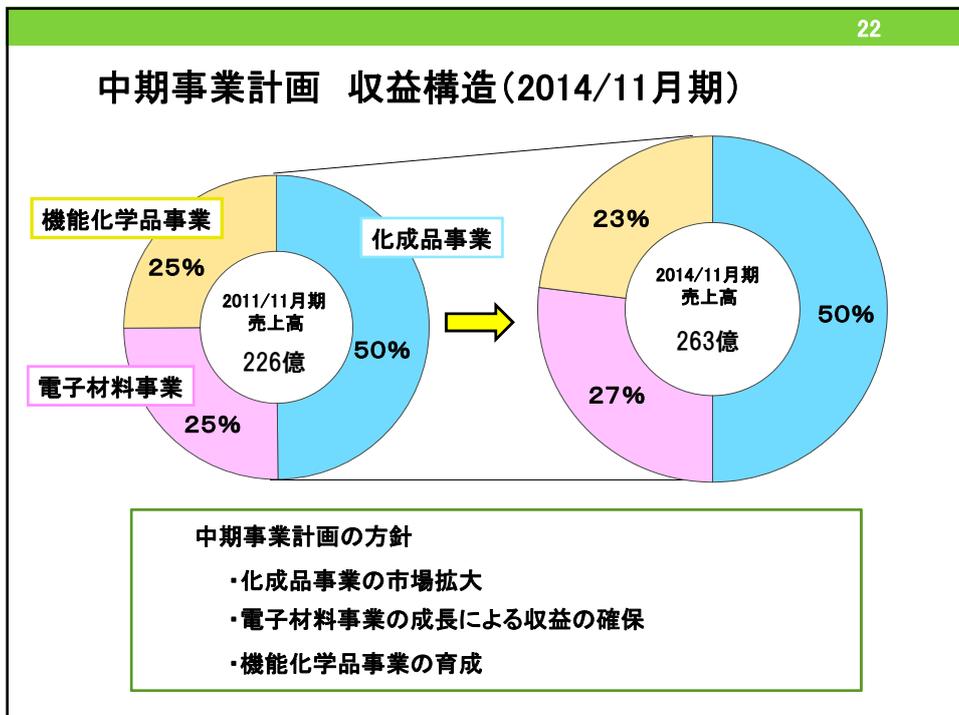
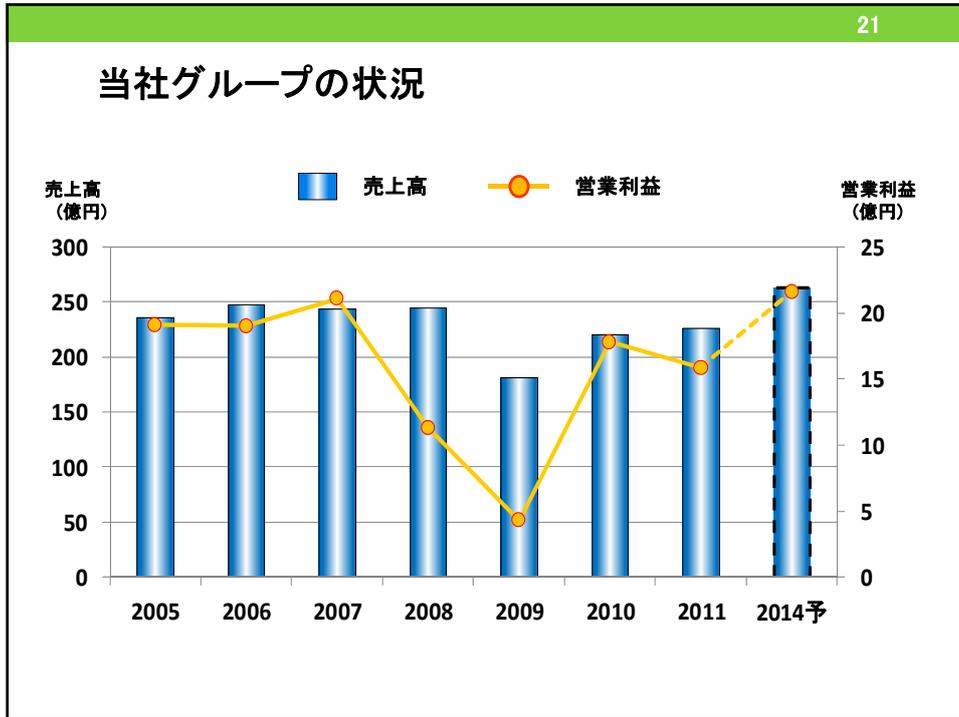


20

中期事業計画 収益目標(2014/11月期)

(百万円)

	'14/11期目標値		
売上高	26,395	22,655	117%
営業利益	2,161	1,588	136%
経常利益	2,237	1,655	135%
当期純利益	1,304	808	161%



23

中期事業計画 <設備投資・減価償却費・研究開発費>

(億円)

	過去3期計 ('09/11 ~ '11/11)	3期累計予想 ('12/11 ~ '14/11)	増減
設備投資	41	90	220%
減価償却費	45	56	124%
研究開発費	30	37	123%

主な設備投資

- ・自動車塗料用「4-HBA」製造設備建設
- ・大阪工場移管に伴う金沢工場・酒田工場への製造設備
- ・パイロットプラント製造設備・分析機器
- ・福利厚生設備

24

中期事業計画 化成品事業

事業環境

- ・国内産業の景気停滞
- ・市場の中心はアジアへ。販売は海外を強化、製品開発は国内で行う。

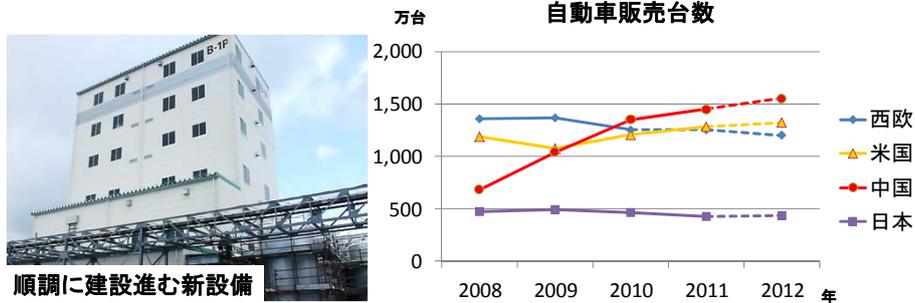
中長期の展開

<事業の強み>

- ・アクリル酸エステルの豊富なラインナップ
- ・アクリル酸エステル製造技術の蓄積

海外市場への拡販強化 製造拠点の集約・プロセス改善 用途の多様化	競争力のある 製品をより強く	基盤事業 としての強化
新製品開発 新規製造プロセスへ	新市場開拓	

中期事業計画 <自動車塗料用「4-HBA」設備増強>



中国自動車市場の拡大による需要増の見込み

酒田工場へ2,500トン/年能力の製造設備を建設(投資額:20億円)



中期事業計画 電子材料事業

事業環境

- ・液晶ディスプレイ、半導体を用いたデバイス生産は韓国、台湾、中国が中心。材料の生産は国内で行う。
- ・光(UV)硬化プロセスがキーポイント
- ・市況による変動と短い技術サイクル

中長期の展開

<事業の強み>

- ・光硬化プロセスのキー材料であるアクリル酸エステル、ポリマーの開発から生産を一貫して行える
- ・高度な品質管理実績

海外展開強化 マーケティング・技術サポート さらなる高品質化 他社との差別化	量的拡大	安定した 高収益確保
次世代材料開発 タッチパネル用材料・3DTV材料 ・次世代レジスト材料	市場をリードする材料	

中期事業計画 機能化学品事業

事業環境

- ・化粧品市場はファッションの多様化とアジア圏の購買力向上
- ・酢酸エステル・特殊溶剤は高機能溶剤用途にシフト

中長期の展開

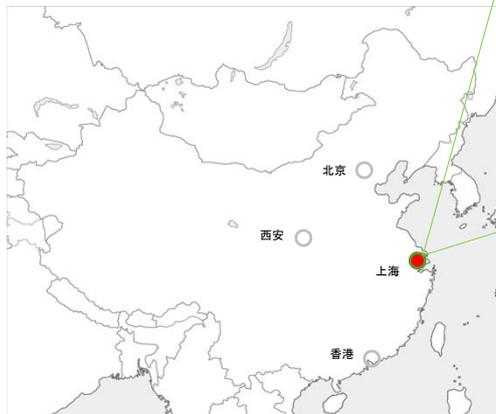
<事業の強み>

- ・機能性アクリルポリマーの設計技術
- ・精密有機合成技術と精製技術

化粧品基材・医薬中間体 分野の市場掘り起し	強みを生かした 分野展開	次期成長 分野開拓
新規機能材料の開発	新規市場開拓	

海外展開 <上海事務所開設>

2012年春に開設

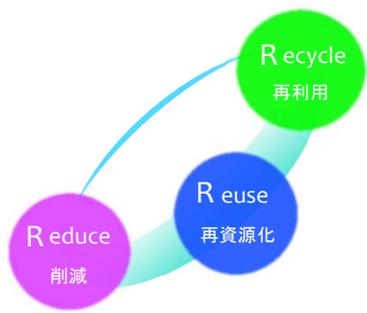


海外販売の強化の為の拠点として育成
3事業製品の
海外販売・マーケティングを強化



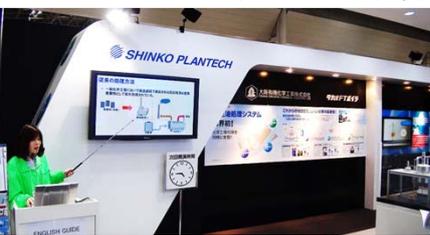
31

環境保全（廃棄物の資源化）

- ・ボイラーとして蒸気の活用
- ・熱の回収利用
- ・有価金属の回収
- ・大阪有機化学工業、新興プランテック、高尾鉄工所との共同開発による
- ・**特許化**（特許公報：2008-051431）
- ・新興プランテックの新規製品として受注を目指す。

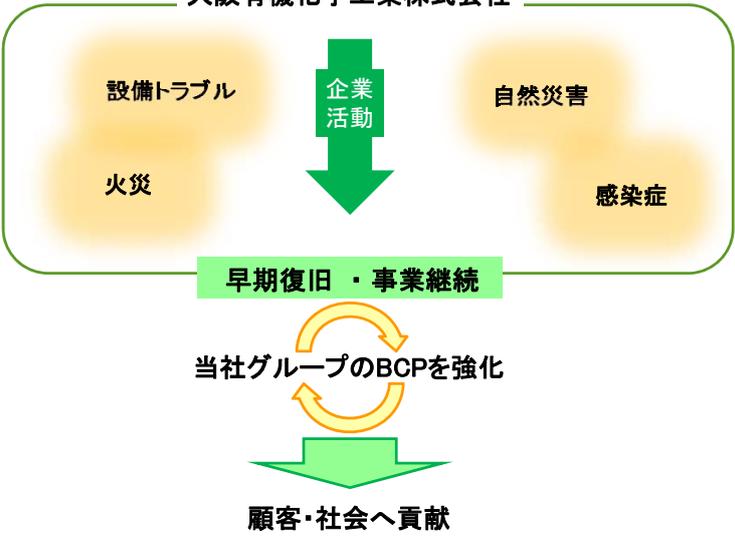
INCEM TOKYO2011 プラントショーへ出展



32

事業継続計画（BCP; Business Continuity Plan）

大阪有機化学工業株式会社



設備トラブル

企業活動

自然災害

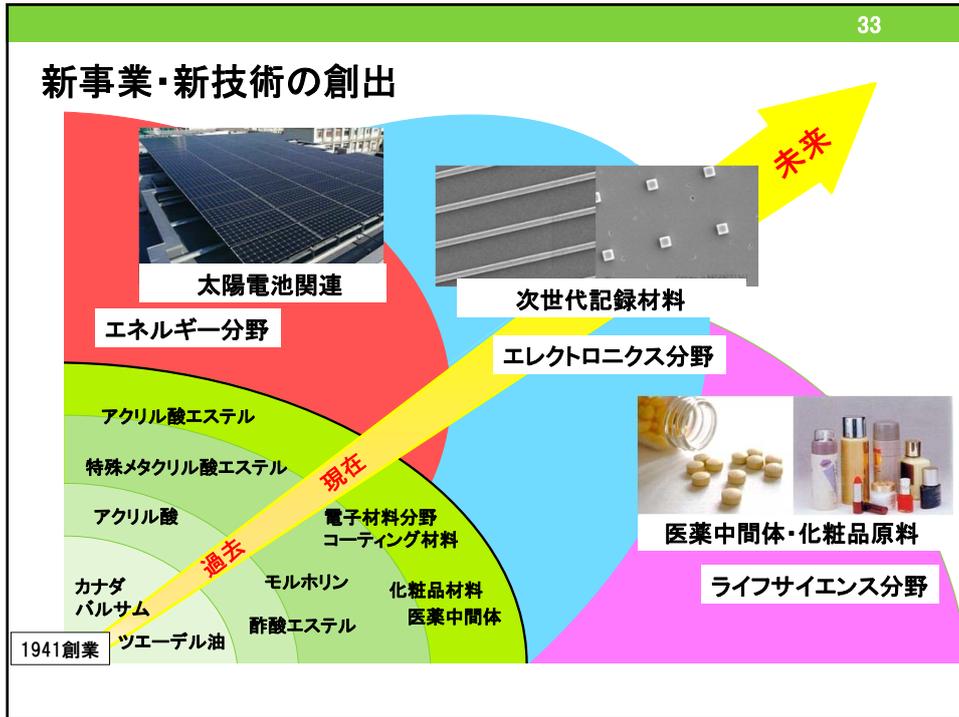
火災

感染症

早期復旧・事業継続

当社グループのBCPを強化

顧客・社会へ貢献



34



大阪有機化学工業株式会社
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.
のびゆく力、未来へ

本資料の予想数値等は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、本資料の内容と異なる場合があります。したがって、いかなる確約や保証を行うものではありません。

35

ご参考資料1 セグメント分類 <2011年11月期より適用開始>

従来事業部門区分			新セグメント事業区分	
セグメント区分	部門区分	主な事業内容	セグメント区分	主な事業内容
単一事業	エステル化製品	特殊アクリル酸 エステル	化成品事業	・塗料、粘接着剤、 インキ向け等アクリル酸エステル ・アクリル酸
		酢酸エステル		
	有機合成品	アクリル酸	電子材料 事業	・表示関連材料 ・半導体関連材料
		電子材料		
	特殊化学品	化粧品基材		
		医薬中間体	機能化学品 事業	・化粧品基材 ・医薬中間体向け原材料 ・その他
		その他ファイン		
その他	試薬			

36

ご参考資料2 比較連結貸借対照表

(百万円)

	10/11末	11/11末	増減	備考
資産合計	28,912	29,476	563	
流動資産	14,733	14,989	256	現金及び預金の増加
有形固定資産	9,766	10,029	263	
投資その他の資産	4,397	4,311	△86	
負債合計	9,226	8,230	△996	
流動負債	6,447	5,769	△677	支払手形及び買掛金の減少 未払法人税等の減少
固定負債	2,778	2,460	△318	長期借入金の減少
純資産合計	19,686	21,245	1,559	増資による資本金の増加 資本剰余金の増加
少数株主持分	158	185	27	
負債純資産合計	28,912	29,476	563	

ご参考資料3 キャッシュ・フロー(連結)

(百万円)

項目	10/11	11/11	備考
営業活動による キャッシュフロー	3,241	1,865	減価償却費の減少。
投資活動による キャッシュフロー	△1,913	△1,228	有形固定資産の取得による支出、投資有価 証券取得による支出
財務活動による キャッシュフロー	89	330	株式発行及び自己株式処分による収入増加。
現金及び現金同等物の 増加額	1,417	967	
現金及び現金同等物の 期首残高	2,293	3,711	
現金及び現金同等物の 期末残高	3,711	4,678	